1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 9031 号

SSKO

栃木ダルク
ニュースレター　第 147 号（2015, 7,14）

Grow up!!

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

薬物依存の回復支援活動の最前線からみた危険ドラッグ

特定非営利活動法人 栃木 DARC
代表理事長 栗坪千明

146 号からの続き

Ⅲ.大麻から危険ドラッグに移行した事例
- ・年齢：27 歳（ダルク利用開始 26 歳）
- ・利用期間 13 ヶ月(Stage3)
- ・学歴：高卒
- ・婚姻：既婚(子供 2 歳)
- ・仕事：高校卒業後は、建設関係や飲食店（バイト正社員を含め複数の職場を点々）と働く。結婚は 25 歳（子どもが出来たのがきっかけ）。結婚後 7 ヶ月からダルク入寮まで無職だった。
- ・大麻から危険ドラッグへ移行
- ・大麻使用：17 歳からクラブ関係の先輩の勧めで使用開始。週末クラブに行く際に使用（5～6 千円/1g）するようになった。20 歳頃使用停止。付き合い程度の飲酒はあった。
- ・危険ドラッグ使用：26 歳（無職時）クラブ関係の友達と再会し、勧められて使用開始。スパイスという銘柄で大麻効果の時もあれば、覚醒効果の時もあった。宇都宮市内の店舗で購入（5 千円/3g 葉）していた。

・使用開始から３ヶ月ほどで連続使用（タバコのように使用）、大麻に比べ、効きが強烈で効果は短い（2～3 時間）と感じた。２ヶ月経過後幻覚（人がいるような）が出はじめ、嘔吐や呼吸困難などの身体症状もあり、その１週間後には意識障害を起こし妻の通報で救急搬送を機に家族の強い勧めでダルク入寮となった。連続使用になってからは身体が拒否しているような感覚や脳が壊れていくような感覚が常にあった。ダルク入寮後２～3 日後に、不眠、情緒不安定、手のしびれなどの症状が出現し、精神科受診、精神薬（デパケン 200m/1 日）の服薬（その後 9 ヶ月間服用、段階的に減薬）によりおさまった。入寮当初は記憶力の低下などが３ヶ月ほどは感じられたが、現時点では生活に支障をきたさないレベルに改善。

・特徴：使用停止している期間が５年ほどあった（大麻から危険ドラッグ）。危険ドラッグの使用開始から短期間での精神症状の発現があった。

1976 年 2 月 26 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 9031 号

活動予定

7 月

3 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導　矢板民生員施設見学（那須 TC）
6 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
7 日　3 施設合同山登り
9 日　再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター　県北家族会
10 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導　明徳会
11 日　家族教室
13 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導　群馬県安中市女性会見学（宇都宮 OP）
14 日　J-MARPP 宇都宮私立泉ガ丘中学校講演　栃木県アルコール問題研究会
15 日　宇都宮保護観察所プログラム
17 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
18 日　危険ドラックシンポジウム　薬物依存症相談担当者専門研修会
19 日　茨城ダルクフォーラム講演
22 日　南那須保護区保護交流会
23 日　JRCNA in 福岡
24 日　JRCNA in 福岡
25 日　JRCNA in 福岡
26 日　JRCNA in 福岡
27 日　東京保護観察所プログラム
28 日　J-MARPP
30 日　再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター　榛名女子学園薬物依存離脱指導
31 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導

8 月

4 日　３施設合同大洗海水浴　J-MARPP
6 日　榛名女子学園薬物依存離脱指導
7 日　喜連川社会復帰促進センター薬物離脱指導　栃木県精神保健福祉センター講演
8 日　家族教室
9 日　ウクレレフェスタ
10 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
13 日　再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
14 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
17 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
19 日　宇都宮保護観察所プログラム　栃木 DARC・岡本台病院連絡会
21 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導　明徳会
24 日　東京保護観察所プログラム
25 日　J-MARPP

発行所　郵便番号一五七―〇〇七三　東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価１００円

編集　特定非営利活動法人栃木ＤＡＲＣ
〒320-0014
栃木県宇都宮市大曽 2-2-14　形松ビル 3 F
TEL 028-650-5582　FAX 650-5597
URL　http://www.t-darc.com　E メール：nesm@t-darc.com

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 9031 号

自分が出来ること

ピースフル・プレイス
栃原　夕子

季節は梅雨に入り、毎日すっきりしない空が続いています。梅雨と言っても、ジメジメと毎日雨が降り続くような季節感は、ここ数年感じられなくなってきたように思えます。ピースフル・プレイスでも、今年新しく苗植えをした夏野菜が早くも実り始め、採れたてのキューリなどが食卓に並ぶようになりました。新鮮な野菜を味わえるのは、ダルクの中でのちょっとした贅沢です。

最近の PP の状況を報告させていただきます。今年に入り、3 ステージを終了し就労プログラムや就学に進むメンバーなど、個々に取り組むプログラムが分かれるようになってきました。勿論、施設内でのプログラムに取り組むメンバーが殆どなため、それぞれの生活スタイルも異なってきます。PP は入寮から卒業まで同じ施設で過ごすので、当然の状況と言えばそうなのですが、これまでの施設の形を少し変える必要性が出てきました。そこで、栃木 DARC 全施設で実施してきたロールモデルを PP では中止し、役割を担当制に置き換えて実施することになりました。担当制にすることで、入寮期間など関係なく個々の回復に合わせた役割を受け持つことが出来ること、責任意識を高めていくことで、日々の生活を次に繋げていくためのモチベーションが維持されていくことなどが期待されています。薬を使わない生活をしていくために自分が出来ること、仲間の回復の手助けをするために自分が出来ること。PP で生活をしながらプログラムに取り組むとき、仲間の中で感じる所属感は私たちの中で驚くほど重要なものだと考えるようになってきました。もともと他人に必要とされることで自己を感じながら生きてきたメンバーも多いため、他人に必要とされている感覚が無くなったとき、自分の居場所はここには無いと言って施設を自主退寮するメンバーも多くいました。誰かに必要とされたい気持ちも、逆に自分が何かを必要する気持ちも私たちの中にはあることを感じています。今回、役割を担当制にしたことで、１人１人が自分に出来ることをやって施設が成り立っているんだよ、ということを感じられるようになっていけば良いなと思っています。ここでは特別なことをしなくても、自分が出来ることを出来る形で取り組んでいける、自分に無理をさせないでも生きていくことが出来る、そんな場所をメンバーたちと作っていきたいと考えるようになりました。

少し自分の話しになりますが、最近、私自身の中でも何か変化が起こっています。何をしていても頑張れなくなってきました。仕事も家事も子育ても力が入らないのです。やっぱり、もともと頑張ることが好きなのでしょうか。頑張る必要のないことでも頑張って全力を尽くす。性格なのか癖なのか。強迫的に走り続けるのです。5～6 年前は、頑張り続けて燃え尽きたこともありました。それから時間をかけて、私に出来ることを出来る形でやれるようになってきて、その都度結果も出ていたし満足するときも増えていました。けれど、最近になって頑張れなくなりました。燃え尽きた感覚とも違い、疲労感が溜まり過ぎているのでもなく。最初は完全にキャパオーバーしているなと思いました。けれど感覚的にそうでもない。今は、それ以上何故なのかを追求することを止めています。頑張らないといけない理由もないし、頑張らないでもなんとかなっているしと自分への見方を変えたら、今の自分でいることも有りだと思えるようになりました。
施設の形が変わろうとするとき、沢山のエネルギーが要ります。けれど、そのエネルギーはいつも私自身が変わっていくための原動力にもなっています。

これから、また暑い夏が訪れます。夏はイベントが多くなります♪♪
海や花火大会は日常生活にはない楽しみがあります。楽しむことも私たちの新しい生き方です。だから、今年の夏も皆で目一杯楽しみたいと考えています。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　増刊通巻第 9031 号

第８４回全日本自転車競技選手権大会ロードレースにて

ボランティアとして参加してきました！

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 9031 号

卒業に向けて

チーフ　関根

ご無沙汰しております。今回のニュースレターを書くのは四回目になります。栃木ダルクの生活も約三年になり、最近の自分は宇都宮 OP でチーフをやりながら、家族再構築をやっています。そろそろ施設生活も最終 PG 段階で卒業する手前で、社会復帰に向けて色々なことに取り組んでいます。日常生活では、毎日八時半に事務所に入り、清掃した後に仲間の処方配りをして生活費を配り、朝の打合せはリーダーシップを取りながらスタッフをまとめています。午前中は主に施設長と打合せをしながら経費の精算や生活費の計算や予定の調整などの事務業務をしています。昼休みには本来ならお弁当を作って食べる所ですが、朝起きてお弁当を作るのが面倒くさいので、外食をしています。昼ご飯を食べた後には眠気がマックス状態で何もしたくないのが本音ですけど、コーヒーを飲み気持ちを入れ替えて自分の担当プログラムのファシリテーターをしています。主に認知行動療法などの司会をしながらチェックインをした後テキストをやっています。ここに出てきたチェックインの説明をすると、まず一週間仲間の体調や気分や薬物の欲求や出来事などの振り返りをしています。特に仲間が成長するにあたって普段どんな取り組みをしているかを聞くことで、自分自身も成長する勉強にもなります。夕方の打合せは、その日の仲間の状態やプログラムの反省会をしています。夜は自助グループの言いっぱなし聞きっぱなしのミーティングに参加していて自分の悩みや今後の取り組みや気分や体調などを話しています。

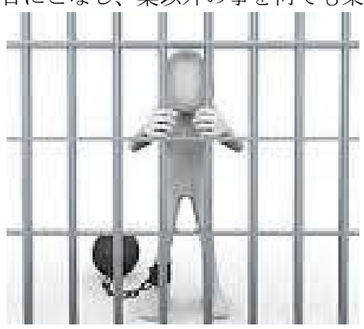
家族再構築で取り組んでいることは、二週間に一回泊りで実家に帰って妻と子供と過ごしながら、親から自立した生活をする為の準備をしています。まず自立した生活をする為に考えている事は、地元から離れた場所に住む事を考え不動産屋めぐりをして、薬物から離れた生活が送れるように物件を優先的に探しました。家族の思いと自分の思いが一致する物件は簡単には見つからなくって大変だったけれども、どうにか妻と子供と一緒に住める物件が見つかりました。自分は単純なので家が見つかれば直ぐに住めると勘違いしていたけれど、これからが大変でした。それは住むのには不動産屋と契約を結ぶのに印鑑や身分証明書など山ほど書類を用意しなければいけませんでした。その後は新しい家で生活をする為に、家電や家具などを色々な店を巡りいっぱい準備しなければいけない物ばかりありすぎて、どこから手を付けて良いか分からなくなりそうだったけれども、どうにか生活する準備が出来ました。施設を卒業してからの住む場所は確保出来たのですが、自分の回復の道は施設から出た後がスタートだと考えています。まず取り組むことは、施設の関係を、たちきらない事が大事だと思っていて、週一回のペースで施設に通う予定を立てています。自助グループも大切で毎日の生活と仕事のストレスのはけ口を NA の仲間たちに聞いてもらう作業も週一回のペースで参加する予定です。家族との会話も大切なので話す場も一日時間を作ってもらう予定です。色々なスケジュールをたて、その通り生活をするのは大変だけど、自分の回復の為には大事な事と考えています。何故なら今までは施設生活をしていて、守られた空間にいたので、今度は施設を卒業して自分で計画をたてなければいけないからです。約三年間栃木ダルクで生活をして学んだ事が社会復帰してから役立つことだと考えています。短い文章ですが、今回のニュースレターを書くのも最後ですけれども、卒業しても、どこかで会ったら気軽に声をかけてください。今まで本当にお世話になりました。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　増刊通巻第 9031 号

昔の生活と今の生活

依存症のハマハマ

依存症のハマハマです。私がシャブを始めたのは 16 歳の頃です。思い起こせば今まで刑務所に入所したのは 14 回ほど有ります。まぁ、なんて可愛そうにと思う人は多いと思いますが。刑務所と聞いただけでいい気持ちはしないですよね。8 回目の入所の時ですが、府中刑務所に入り、中で何度も懲罰になったりしました。その原因は職員があまり私に対して面倒を見てくれなかった事が原因でした。その後、刑務所生活でずっと独居生活を送る事になってしまったのです。始めは雑居部屋に入る事が決まったのですが、私は部屋に入った時にすぐに職員に文句を言われ、頭にきて職員を殴った事でずっと独居房に入ることになっていしまったのです。社会でもすぐにカッとなり喧嘩をして警察に捕まるということが度々ありました。14 回の服役の内、殆んど刑務所では、独居で生活することになってしまったのです。保護房に入れられ 4 日、皮手錠を掛けられ手は腫れ上がり、本当に情けなく思いました。もう二度とこんな暮らしはしません。そんなことがあって去年 12 月にちょっとした事で、警察に逮捕されダルクに面倒を診てもらうことになりました。職員や周りの仲間の優しいご支援があって今は幸せに暮らしています。ダルクの生活をしている方々は皆、性格が違い、あった人も居ますが、迷惑を掛けたり、決まり事や約束があり大変ですが、周りの仲間に支えられ、真面目に生活をしています。特に楽しいことはプレジャーで、自分の大好きなボーリングやカラオケに行けたり、バーベキューなどのイベントに参加させてもらい、本当に幸せに生活をさせてもらっています。寮の皆様方は、そのようなこと事を一緒に出来て、私と同じ気持で居ると思います。自分の楽しみはもう一つあります。茄子の収穫をやっていて去年、ビニールハウスの整理をしていて仲間の人が来年、「収穫があるから楽しいよ。」と言われ茄子の定植をやって自分の植えた茄子が取る事が出来るようになりました。本当に心を込めた茄子なので収穫はとても楽しくてしかたないくらいです。11 月、寒くなるまで続くようなので、これからも本当に楽しみです。来月には登山もあり、色々なイベントが有るようなので、考えてみたら、こんな自分が、まだまだ楽しみが沢山あると思うと、薬を止める気になって本当に良かったと思います。これからも自分の楽しみを見つけ、沢山の仲間と色々な経験を積んでいきたいです。これからはトラブルを起こしたり喧嘩をしたり絶対せず、沢山の仲間と色々な事を楽しんで行きたいと思っています。死んだ父親と祖父母や身内もきっと今頃どうやって私が生活しているのかを心配していると思います。今の気持ちを忘れずに、昔、使っていた自分に再び戻らないように、一生懸命頑張って行きたいです。最初は NA や施設の業務で仲間に迷惑をかけていましたが、段々慣れてきて今では仲間に教えたり、色々な所へ行ったり、昔の自分では考えられない生活をしています。この生活を手放したくはありません。そのためには、今しなくてはいけないことを真面目にこなし、薬以外の事を何でも楽しみ、毎日、毎日を充実させていく必要があると思います。正直、農作業や集団生活は楽しい半面とても大変です。しかし昔の自分を考えたら、少しは真面目になった自分が居ると思います。周りの温かい仲間に囲まれ、自分が変わり続ける事が、14 回の刑務所生活をした自分、死んだ父親の償いだと思っています。きっと今の自分を見てほんのちょっと安心しているのかと思います。これからも規則を守り、優しい方々に支えられ真面目に暮らしていきたいです。有難うございました。



今の自分

アオ

皆さんこんにちは。今回３回目のニュースレターを書かせていただく薬物依存症のアオです。私は 6/24 で丸 2 年になります。まさかこんなにダルクに繋がっているとは思ってもいなかったです。私は薬物が大好きで今でもやりたいと思っています（笑）2 年たってまだやりたいなんて恥ずかしいですね（笑）自分の病気の根深さに嫌になります。（笑）でもそれも自分なんだなって思えるようになったのはダルクに入って 1 年経ってからのことでした。私は 1 年経つまで自分の病気と戦っていました。ホームシック病で泣いたり、薬物がやりたくって苦しんだり色々な感情と向き合ってきました。でも 1 年を過ぎてから段々自分の感情と上手く付き合えるようになりました。まあ、半分は諦めたような感じだったんですけどね。ホームシック病も家族再構築、親と手紙のやり取りができて解消されたし、薬物はやらなくても生きていけるってのにも気づけたし今では苦しむことは無くなりました。それからの 1 年経つのはものすごく早く感じました。気付いたら 2 年が経っていました。時が経つのは早いもんですね。（笑）この調子でどんどんクリーンをのばしていきたいです。ここまでこれたのは仲間のおかげです。日々仲間には感謝しています。辛い時、悲しい時、寂しい、苦しい時いつも傍に居てくれたのは仲間でした。薬を使っている時周りには薬中仲間がいました。でもそういう仲間とは違うんですよね。確かに薬物を使っていた時周りには薬友はいたけれども結局薬物でしか繋がってないんですよね。中学校からの友達だったけど薬物が入ってしまうとみんな自己中になって自分の事しか考えなくなってしまうんです。みんな薬物が入っているんで人を信じるってことを忘れていました。なのですぐ喧嘩になったりしていました。でももうそうゆう付き合いはやめました。ダルクに入って人間関係を見直す事ができました。今自分が大切にしなきゃいけないのは家族、仲間です。あと自分。もう薬友とは遊べないけど自分の為だと思ってます。それで良いといいんだと。。。。

私は今定時制高校に行かせてもらっています。中学校卒業後私は高校に行かなかったので、初めての高校です。受験する前は受かるかすごく心配でした。合格発表の日施設長と見に行って自分の数字があって「やったー」と思わず叫んでしまいました。若い頃行けなかった高校に行けることになってすごく嬉しかったです。でも高校行きはじめて友達が中々出来なくて始めの 2 ヶ月は学校に行きたくありませんでした。毎日施設で行きたくないって言ってました。10 個も下の年の子なんて仲良く出来ないと変なプライドをもっていました。でもやっぱり年下でも人は人なんですよね。いつの間にか仲良くなっていました。（笑）始めから誰も上手くいかない。時間をかけてあせらずゆっくりとやればなんとかなっちゃうんですね。今では学校が楽しいです。施設と学校を両立するのは結構大変だけど施設長、仲間の配慮により何とかやってます。

私の今の目標はまた家族と住む事です。いずれダルクを出てまた家族と住みたいです。親はどう思っているのかなぁって思ってます。家族再構築の時に聞けばいいんですけど、自分を否定されるのがすごく怖いので聞けずにいます。親は薬物のことを理解しようと家族会や家族教室に通ってくれています。始めは理解なんてできないなんて思っていましたが家族再構築を重ねていく内に薬物の話で笑い話ができるようになりました。自分はずっと親に心を開けずにいたんだなって思いました。まさか親と薬物の話をするなんて思っても無かったです。薬物の話なんかしたら親が傷つくと思っていました。でも自分の事を理解しようとしてくれている親がいてくれてとても嬉しいです。これからも家族を大切にしていきたいです。

最後に自分を応援してくれている家族、友達、仲間に感謝しています。ありがとう。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　増刊通巻第 9031 号

６月にステップアップした仲間

那須 TC
- フジモン　サポートへ
- リベリ　リーダーへ

那珂川 CF
- アツ　Stage2～Stage3へ
- ヒロオ　Stage1～Stage2へ

宇都宮 OP
- TK ター　Stage2～Stage3へ

PP
- ハルミ　サポートへ
- ゼン　Stage1～Stage2へ

６月の献金・献品

（献金）社会福祉法人寿松会理事長　佐藤充様　他匿名 4 名様

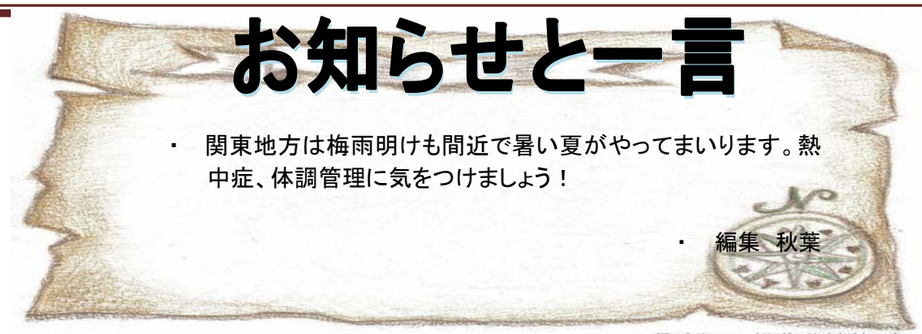
(献品) 星一明様、茨城依存症回復支援協会「ARSA」様、株式会社大夢様、フードバンク宇都宮様、
他匿 10 名様

とても助かっております。栃木ダルクー同感謝しています。

献品のお願い

- 修了者の為の原付バイクがあれば頂きたいです。中古、多少壊れていても結構です。
- 修了予定者が多数の為。家具、家電（TV、洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、ファンヒーター）等あればよろしくお願いします
- 那珂川 CF より農機具、タオル、スポーツ飲料の粉があれば宜しくお願いします。
- 中古パソコンがあればよろしくお願いします。
- 中古の乗らなくなった自転車等あれば宜しくお願いします。
- トレーニング器具（ダンベル、バーベル等）あればよろしくお願いします。

お知らせと一言



- 関東地方は梅雨明けも間近で暑い夏がやってまいります。熱中症、体調管理に気をつけましょう！
- 編集　秋葉

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2015 年 7 月 14 日発行　ＳＳＫＯ　増刊通巻第 9031 号

依存症

依存症のオギ

はじめまして、アディクトのオギです。俺は覚醒剤の前に１５才でシンナーを初めて吸いました。その頃の自分は、まだ世間知らずでした。俺はシンナーを吸い始めた頃にすぐ上の兄にシンナーを吸うと友達とかがいなくなるぞと言われました。その事をいつも思っていたら、案の定、本当に友達が離れてしまいました。でも、俺はそんなことお構いなしにシンナーを吸いました。最初の頃は、別にただ身体がだるくなっていたくらいでした。その事で俺はあんまりいいものではないな、と思いましたけど２１歳でクスリ覚え始めるまでずっと吸い続けました。それからクスリを覚えてからも、時間と暇があればクスリをただひたすら吸い続けました。最初、クスリを覚えたのは、この自分にシンナーを教えた兄の女でした。シンナーよりもいいものがあるぞと言われて、何も考えずにクスリをやりました。最初は一日にクスリをやるのに、大体２時間に一度のペースでした。朝やるならばおおよそ８時くらいにやりました。その頃の俺は仕事をせずに家でプラプラしていました。オレの家へクスリを持ってくるのが、俺に教えた兄の女でした。俺は朝の９時頃に、家を出てパチンコで生活をしてたのです。そのクスリを持ってくるのは、朝パチンコ店に℡がありまして、その時、家へ一度帰って、電話で今日はどの位のクスリがあるから、今日は夜中までできるぞ！と言う、ちょっと変わった女でした。俺は１１時にパチンコ店に℡があり、一度帰ってからクスリを入れて、大体また１３時頃にパチンコ店に℡をしてくるのです。そのくりかえしでクスリを入れてました。そうして俺が午後３時頃に家に帰るとその女はずっと俺のアパートにいるのです。だから薬をしても薬は、その女からタダでしてました。大体夜の１時頃までその女がいるのです。その後その女は彼氏とラブホにいって、帰るときに少し置いて帰るのです。俺は２時間に１回のペースで薬をやるのだよと教えられました。だから薬は２時間に１回やるものだと思ってました。

最初は、幻聴とか、聞こえなかったのですが１年くらいは別に何ともなかったのです。そのうちに幻聴が聴こえてきたりしても、俺はかまわず、薬を使い続けていました。そのうちその女からけんか別れになってしまいました。そしたら余計に幻聴が入ってきて、どうにもならなくなってしまいました。それから１年位たって俺に結婚相手ができました。最初から俺は薬を、使ってるよと言ってました。俺の嫁さんは別に何とも言わなかったけど子供ができたのです。それでも薬が止まらず、群馬から、栃木県の方へ引っ越しをしたのです。そうやって売人から離れていたのですが、売人が俺の家を調べてきて、電話とかがきました。俺は、そんな女を憎みました。

そして、平成５年。平成７年。平成１４年と、覚醒剤で警察に捕まりました。その後、平成１６年の１１月頃に初めて東京ダルクに繋がりました。それから１１年がたとうとしてます。俺はこの栃木ダルクで７ヶ月目です。すぐ施設が嫌になり、パトカーを蹴って今回、府中刑務所に入り平成２６年１２月１７日に栃木ダルクの３回目の入寮です。俺は、今回の施設生活でもう二度と薬には手を出すまいと思ってますけど、まだ目の前にあれ

やると思います。人間やめますか、それとも覚醒剤やめますかのテレビの宣伝の事を思い出して、たぶんこの施設がなかったら、人間やめますかのセリフだと思っています。俺には子供が３人群馬の太田市に住んでいるので、退寮したら、子供たちと一緒にまじめになり、生活をしたいと思っています。今回が最後の施設生活なので、まじめに施設生活をりたいと思っています。歳も５０歳なので、最後の楽園にしたいです。

今年の４月から職員になった那珂川 CF の高田主任の修了式

おめでとうございます‼□

施設報告

那須 TC（初期・断薬）16 名　宇都宮 OP（後期・社会復帰）12 名
那珂川 CF（中後期・農作業）17 名　ピースフルプレイス（女性）10 名
計 55 名で活動しております。各々の施設でステージ事のプログラムを
実施しております。